

釧路市 校務 DX 計画

国が令和5年3月に公表した「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門
家会議」の提言において示された次世代の校務 DX の方向性と、国の調査「GIGAスク
ール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検およびそのフォローアップ結果
を踏まえ、本市が重点的に取り組むべき課題と解決に向けた方策について、以下のとおり
列記する。

1. FAX・押印の原則廃止

学校と教育委員会間の連絡において FAX はほぼ撤廃され、押印も手続き上必須である
一部書類のみに留まっているが、学校と教育委員会以外の外部との連絡には、FAX 利用が
いまだ少なくない。必ずしも FAX で行う必要のないやり取りについては、原則電子メールや
クラウドツール等を活用したペーパーレス化を推進していく。

2. 校務のクラウド化の推進

本市では令和5年度よりクラウド型の統合型校務支援システムを導入し、搭載されたグル
ープウェア機能による教職員間の情報共有の円滑化、関係書類のデジタル化、児童生徒情
報の一元化などに取り組んでいるが、学校内におけるセキュリティ面の課題から閉域的なネ
ットワーク環境での運用に留まっている。今後は、いわゆるゼロトラストの考え方に基づきアク
セス制御によるセキュリティ対策を十分講じた上での校務系・学習系ネットワークの統合に向
けた検討を進めていく。

3. 保護者との連絡ツールの導入

保護者との出欠等の連絡については、一部の学校において無償サービス等を利用したデ
ジタル化が進められてはいるが、災害発生時(ベンダー所在地における災害も含む)等には
システム障害により通信できない事象が全国的に発生している。災害発生時でも有効な有
償連絡ツールの導入による全市的なデジタル化・統一化を視野に入れながら、校務支援シス
テムとのデータ連携による出欠処理の業務軽減を目指していく。

4. デジタル採点システムの導入

令和5年度より試行的に導入しているデジタル採点システムについて、採点時間の削減効
果と、校務支援システムとの連携による学習系データの集約・分析・活用が見込まれながらも、
導入が一部の大規模校に留まっていることから、中学校および義務教育学校を中心に段階
的な導入を視野に入れた予算措置を進めていく。

5. 教育ダッシュボードの創出

1人1台端末の整備により、児童生徒の学習における端末利用が急速に進んだ一方で、
個々の端末の活用状況等のデータを統合し、可視化できるようなダッシュボードの構築には
至っていない。Web フィルタリングや学習 e ポータルを利用した教育ダッシュボードを実装
することで、経験や勘のみに頼らない児童生徒へのきめ細やかな指導と、教職員の事務負担
軽減を目指していく。